

国語 内容および観点別の分析

観点	国語への 関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての 知識・理解・表現
課題点 と 改善点	・日常生活でも生かせる学習内容を多く取り入れ、興味と意欲をもって取り組めるようにする。	・話の要旨を押さえて聞き、相手により伝わるように話すために、メモや提示物の活用など、具体的な技能を育成する。	・要旨が明らかになるよう、文章を効果的に構成する能力をさらに育成する。	・よりの確に文章を読み取るために、要旨をつかみながら文章全体を把握する能力を育成する。	・漢字の筆順などを中心に、引き続き基礎の積み重ねを重視する。
	(課題) ・日常生活を通して、言語活動や表現活動により興味・関心を持って取り組めるよう学習を計画していく。 ・より正確に文章を読み取り、的確に相手に伝わるよう表現したりできるように、全体像を把握しながら、読んだり書いたりする能力を育成する必要がある。 ・漢字の読み書きの正確さを高めるなど言語活動の指導時間を充実させる。				

【具体的な改善策】

<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> *主語述語など、文の構成の基本をしっかり身につけさせる。 ・何を伝えたいかを読み取れるように、具体的に焦点化しやすい発問を工夫したり、よりよいまとめ方を体験させたりする。 ・話し方の基本を確実に指導する。 ・思ったことや考えたこと、体験したこと文章に表現させる。 <p>(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを明確にし、発問を工夫することで、文章の中から何を読み取り何を考えればよいかをはっきりさせる。 ・話すこと書くことの基本を定着させるため、ことばあそびなどの活動を通して豊かな表現力を身に付け、文章を書くことにつなげていく。 ・身近なことなどについて、順序を整理しながら話したり書いたりさせる。 <p>(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読解力を高めるために、ねらいを明確にし何をしたらよいかをきちんと捉えさせ、的確に読み取り表現できるようにする。 ・焦点化しやすいように、発問や支援を工夫したり、話し方の練習や文をふくらませる練習を取り入れたりする。 <p>低学年の基礎的言語指導</p> <ul style="list-style-type: none"> *文のなかでの吃音、くっつき「は、へ、を」などを、正確に書けるようにする。 *文の中の主語・述語などの組み立てに注意して表現する力をつける。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> *段落のつながりなど、文章全体の構成を考慮することができるように、段落構成の基礎を身につけさせる。 ・読み取りの能力を高めるために、日頃からいろいろな読み物に親しませる。 ・様々な指導場面で、相手や目的を明確にして、児童が話したり聞いたりできる場を設定する。大事なことを落とさずにメモするなど、具体的に指導する。 ・何を中心に書くのかを明確にし、段落と段落の続き方や構成に注意しながら書く態度を育成する。 <p>(3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読解力を高めるため、いろいろな読み物に興味をもたせ、読む機会を多くする。 ・具体的な場面を通して、メモの取り方の学習をし、友達とのメモと比較したり、自分が工夫した点を紹介したりするなど学び合いの場を設定する。 ・段落のつながりを工夫して作文できるように、短ざくなどを使って指導する。 <p>(4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな読み物に興味をもたせ、読む機会を多くする。 ・相手や目的を明確にして、児童が話したり聞いたりできる場を設定する。 ・何を中心に書くのか、段落の続き方や構成に注意しながら書くようにさせる。 <p>中学年の基礎的言語指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落などの文章構成を考慮する手立てを計画的に工夫し、文章を読んだり、書いたりさせる時間を充実させる。 ・生活の中で正確な漢字を使えるようにする。 ・すべての単元で言葉について、計画的に指導していく。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> *漢字の読み書きを徹底させ、適切な言語を使えるようにさせる。 ・文章の要旨を全体の中から読み取れるようにするために、書かれている内容を日常の体験と結びつけながら読み進める。 ・「書きたい、伝えたい」という意識をもって、書こうとする要旨を明確にしながらいねいに書かせる。 <p>(5年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書、読み聞かせをより推進し、文章を読み取ることに慣れさせると共に、日常の国語授業の中での語彙力の習得に力を入れる。 ・文学作品の読解を中心として、背景描写を視覚化・言語化させたり行間を思い描かせる指導に重点をおいて取り組む。 ・「構成メモ」に書きたいことの骨子や順序、心に残ったことなど書きたい内容を整理させてから書かせる。 <p>(6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ・朝読書・図書時間を有効に使うことで日頃の読書量を増やし、語彙力を高める。 ・物語文で、登場人物の心情や場面についての描写について、じっくりと話し合わせることで心情や情景を豊かに想像させながら読み進める。 ・「構成メモ」に書きたいことの骨子や順序、心に残ったことなど書きたい内容を整理させてから書かせる。 <p>高学年の基礎的言語指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で正確な漢字を積極的に使えるようにする。 ・個人差に応じた言語指導を工夫する。

社会 内容および観点別の分析

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
課題点と改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・見学、観察など具体的な学習活動をさらに充実させ、興味関心をもたせる。 ・新聞づくりなどを丁寧に組みませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識をより確実なものにするため、資料を見たり、複数の資料と関連づけて読み取ったりしながら、考える活動を取り入れる。 ・「なぜそうなるのか」を社会事象と関連づけて考えさせる活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図やグラフ、表の読み取り方を意図的・計画的に指導する。 ・日常生活で触れることのない事象については丁寧に教える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県の位置と名前を理解する指導を充実させる。 ・工夫や苦勞を考えながら理解させるなどの工夫を行う。
	(全体) ・地図やグラフ、表といった資料の読み取り方を確実に身につけさせる。 ・知識を覚えるだけでなく、体験活動を多く取り入れ、興味関心をもって実感できる学習を進める。 ・知識をより確実なものにするため、資料をじっくりと見たり、複数の資料と関連づけて読み取ったりしながら、「考えさせて、自分の意見をもたせる」授業の展開を行う。			

【具体的な改善策】

低学年(生活科)

・人と関わる体験を多く取り入れ、学校や家庭や地域など身近な社会に気づかせたり考えさせたりする。

(1年生)

・自分は、家族だけでなくいろいろな人たちや施設などかかわりをもって生活していることを体験活動を通して気づかせる。また、そのことを伝え合う中で、友達や先生、学校内の人たちとの関係を深めていく。

(2年生)

・身近な人たちとの関わりや施設の利用などの体験を通して、人にはそれぞれ役割があることに気づかせ、自分にできる役割や対応の仕方を考えさせる。

低学年の基礎的な指導

*低学年は好き嫌いの割合と意欲の割合が一致するので、農作業などの体験的な活動を多くし、積極的に自然に関わることができるようにする。

*図書室や図書館などでも調べることができることを体験させる。

*ごっこ遊びやグループ活動などでの友だちとのかかわりを通して、互いの役割の大切さに気づかせ、社会がそれぞれの仕事や役割の協力で支えあって来ている事実にも自ら気づくことができるよう指導に当たる。

中学年

・見学・体験など具体的な学習活動をさらに充実させる。

・資料を読み取り、「なぜそうなるのか」を考えさせる活動を取り入れる。

(3年生)

・見学・体験など身近で具体的な学習活動をさらに体験させ充実させる。

・地図や地図記号などに触れさせる機会を多く設け、見方や使い方に慣れさせる。

(4年生)

・見学・体験だけでは終わらせず、さらに各自で調べさせるようにする。

・グラフや表などに触れる機会を増やし、資料から分かることを読み取らせようとする。

中学年の基礎的な指導

*地図記号を確実に覚え、活用できるように丁寧に指導する。

*掲示する資料や地図が読み取れるための基礎的な事柄を身につける時間を充実させる。

*日常の経験をふまえ、児童の関心を学習内容に関連づけて学ぶことができるように、児童の実態の把握し、学習の計画を立てる。

高学年

・実地体験やVTRの活用など諸感覚に訴える授業を展開する。

・学習によって得られた知識を多角的にとらえ、判断させていく。

(5年生)

・ワークシートやビデオ教材、写真を多く活用し、授業内容を実感して捉えることのできるように工夫していく。

・資料を揃え、授業内容を生かさせながら、取捨選択して日本の産業のあり方について考えられるような場を数多く設定していく。その中で一人ひとりが課題をもった新聞作りを行い、本物の知識を身につけさせる。

・単元に地理的要素を絡ませながら、地図を多く活用して使い方、見方に慣れさせる。

(6年生)

・人々の工夫や知恵、人物の生き様が生き生きと分かる資料・教材を用意し、実感を伴った理解向上を図る。

・調べたことをただ書き換えるだけの活動にならないように、事象の意味を考えたり複数の事象から考えたりする活動を行う。

・社会的な事象を年表を使って時間的にとらえさせるだけでなく、地図帳などを使って地理的にも認識させる。

高学年の基礎的な指導

*各単元毎に資料や図の見方、比較の仕方をていねいに指導する。

*地図を多く活用し、使い方、見方に慣れさせる。

*資料の活用の仕方についての基礎指導の時間を確保する。

算数 内容および観点別の分析

観点	算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 表現・処理	数量や図形についての 知識・理解
課題点 と 改善点	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを生活に生かす体験をさせ、興味関心をもたせながら算数のよさを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題の解決結果だけでなく、条件に合わせて活用したり、説明したりできるように考えさせる。 情報過多の表やグラフ、文章から必要な条件を自ら考え、演算決定をし、解決できる力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 乗除計算や作図を確実にする。 目的に応じて概数で求めさせる。 表の中から必要な情報を読み取る力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 公式や用語の理解を深める。 選ぶ数の指定がな場合、条件を満たすもの全部を選ぶ問題を体験させる。

(課題)
 ・さらに、基礎的な力をつけると共に、見通しをもち、既習事項を使って新しい課題を解決する力をつける。
 ・式や図を読んだり、表の中の必要な情報を読み取ったり、筋道立てて説明したりする力をつける。
 ・多様な考え方を計画的に体験させ、柔軟な考え方ができるようにする。
 ・よさに気づかせ興味関心をもって日常生活と結びつけ、活用する機会を多くする。
 ・知識の定着と技能の向上のために練習や習熟の時間の確保を工夫する。

【具体的な改善策】

低学年

- *加法・減法(乗法)の意味の理解の徹底と正確な計算力を高める。単位の大切さと基礎を身につけさせる。
- ・ねらいに直結した算数的活動を多く取り入れ、自分なりに考えさせて説明させる。
- ・おはじき図、テープ図、線分図などで、問題を表せるようにする。
- ・問題解決的な授業を行い、思考能力を養う。

(1年)

- *くり上がりのたし算やくり下がりのひき算を確実に身につけさせる。
- ・ねらいに合った作業的活動を通して、気づかせたり考えさせたりする。
- ・たし算、ひき算を日常生活と結びつけて考えさせ、ブロックや図を使って式や計算を考えさせる。またそのことを、言葉や図、式、表などに表したり読みとったりさせる。
- ・友達と自分の考えが同じか比べさせる。

(2年)

- *かけ算の意味を大切に指導し、かけ算九九を確実に身につけさせる。
- *長さの測り方の基本を3年のかさや重さの測り方に発展できるように考えさせる。
- ・ノートに自分の考えを、図、式、言葉で表すことができるようにする。
- ・テープ図、線分図などを用いて、解き方を説明できるようにする。
- ・日々の授業で、答えだけでなく自分の考えを説明させる機会を多く取り入れる。

中学年

- *乗法・除法の意味の理解の徹底と正確な計算力を高める。
- *量の測定の考え方の基本を確実に身につけさせる。
- ・学習内容の関連や系統性を意識させ、既習事項を使って新しい課題を解決する学習を大切にす。
- ・考えを図や数直線に表現させたり多様な考えを体験させたりし、目的に応じた方法に気づかせる。
- ・学習したことを、生活の中で生かせる場を見つけさせたり、実際に活用させたりする機会を多くする。

(3年)

- *乗法の意味の理解の徹底と計算力をつける。
- ・既習事項を使って新しい課題を解決する学習を体験させ、使えるようにする。
- ・乗法・除法の問題の関係を理解しやすくするため、数直線を用いて指導する。
- ・学習した内容が生活の中でどう使われているか見つけさせ、活用できるようにする。

(4年)

- *乗数除数とも2位数より大きい乗法・除法の計算を確実にする。
- *量(面積)の求め方を確実に身につけさせる。
- ・多様な考え方を体験させ、目的に応じて柔軟に考えられる力をつける。
- ・問題を数直線や言葉の式などに表して演算決定させ、筋道立てて考えられるようにする。
- ・学習内容と日常生活と関連させて考えさせ、学習を活用できる力つけていく。

高学年

- *小数、分数の計算を整数の計算と関連づけて、確実に身につけさせる。
- ・学習内容の関連や系統性を考えながら見通しをもって取り組み、課題を解決する能力を身につけさせる。
- ・既習事項を日常生活と結びつけて活用する機会を増やし、考え方に柔軟性をもたせる。
- ・習熟の時間を確保し、繰り返し計算、作図等に取り組みさせることで、より確かな技能を身につけさせる。

(5年)

- *小数の乗法・除法の計算を確実に身につけさせる。
- ・多様な考え方を計画的に体験させることで、様々な方法を用いて課題を解決する能力を育てる。
- ・線分図、グラフ、数直線を課題解決のための手段として使えるようにする。
- ・基礎・基本の定着を徹底するために、計算、作図の習熟を時間を取って繰り返し行う。

(6年)

- *分数の乗法・除法の計算を確実に身につけさせる。
- ・多様な考え方を計画的に体験させ、既習事項をもとに様々な方法を用いて課題を解決できる能力を育てる。
- ・線分図、グラフ、数直線を課題解決のための手段として柔軟に使えるようにする。
- ・基礎・基本を徹底するために、計算、作図の習熟を時間を取って繰り返し行う。

理科 内容および観点別の分析

観点	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
課題点と改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と日常生活を関連づけ、興味関心をもたせる。 ・観察、実験を丁寧に行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実感を伴った理解をするため、自然の事象を的確にまとめ、文章化する力をより身につけさせる。 ・事象の規則性を、公式を基に考える計算能力は優れている。今後も演習を通して伸ばしたい。 ・生物との関わりをより体験する学習活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手にとり、目で見える観察・実験をより充実させ、原理の反復学習を行うことで、技能をより高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より幅広い学習活動を展開する中で、事象の関連性を認識させたり、日常生活の現象と結びつけたりする。
	(課題) <ul style="list-style-type: none"> ・推論をしながら、見通しをもった観察・実験を計画的に行い、問題解決の能力を高める。 ・生物分野で、諸感覚を働かせる学習活動を今後もより充実させていく。 ・観察、実験などから得られた考察をよりの確に表現させ、理解力を深めるために、個に応じた課題解決学習を取り入れていく。 ・反復学習を充実させ、事象の規則性を公式や言葉として理解し、結論を導き出す能力の定着を引き続き図っていく。 			

【具体的な改善策】

低学年(生活科)

- ・自然に関わる活動の楽しさを言葉、絵などの方法により表現させ、考えるようにさせていく。
- ・言葉かけにより、気付きの質を高める。
- ・生活科の学習の中の自然と関わる体験を通して、「なぜだろう」と考えたり、それを調べたりできることに気づかせ体験させていく。
- ・学んだことを表現する活動を取り入れ、交流する中で新たに気付いたことを大切にさせていく。

(1年)

- ・自然と関わる体験を体験のみに終わらせず、児童の気づきを聞き取り、好奇心や興味をふくらませる言葉かけをする。
- ・学んだことが生活に結びつくことに気づかせる。また、遊びを工夫させ、工夫する中で、児童の気付きが高まるようにする。

(2年)

- ・自然と関わる体験が、次の課題につながるように題材の提示を工夫する。
- ・「なぜだろう」という好奇心や興味関心を大切に、自分で調べる体験を取り入れる。また、遊びを工夫させ、工夫する中で、児童の気付きが高まるようにする。

低学年の基礎的指導

- *自然体験、飼育・栽培を重視しているので、興味をもって活動する児童が多い。中学年以降の理科学習を視野に入れ、自然の不思議さやおもしろさを実感させる。

中学年

- ・興味をもたせるだけでなく、「なぜ?」「どうして?」と考え、追究しようとする態度を促す。
- ・観察や実験の結果と日常生活の中での一般的規則性とを比較し、知識・理解としてのまとめを大切にする。

(3年)

- ・日常生活の中で、身近な植物や昆虫にたくさん触れさせ、共通点や差異点に気づかせ関心をもたせる。
- ・観察や実験の結果を、体験と関連づけながら理解させる。

(4年)

- ・日常生活の中で、植物や昆虫に触れる機会を多くし、四季を通じての変化に気づかせ、関心をもたせる。
- ・科学的な思考・判断を深めるために、観察、実験の結果から考える機会を増やしていく。

中学年の基礎的指導

- *進んで実験・観察を行ってはいるが、その結果から一般的な知識を導き出すことは、さらなる指導が必要である。
- *授業の中や日常生活において、事物や事象の変化により気づくようにする。

高学年

- ・視点を明確にして、日常生活に根ざした観察や実験を数多く取り入れる。
- ・実験方法や問題解決の方法を一人ひとりに考えさせることにより、自然の事象の理解を深めさせる。

(5年)

- ・実験の目的を明確にし、条件を制御しながら観察や実験を見通しをもって丁寧に行い、実感をもてるようにする。
- ・学習内容を日常生活の事象と結びつけ、学習内容が日常生活にフィードバックできるように一般化させ、規則性に気づかせる。
- ・身のまわりにある素材が使えるような、簡易で実生活に即した実験を多く設定していく。

(6年)

- ・問題をより明確に意識させ、学習のポイントで一人ひとりが仮説を立てて実験をし、考察させていく。
- ・実験結果の予想を、既習事項や生活体験をもとに考えてまとめ、性質やしきみ、規則性を理解させる。
- ・発表し、話し合わせることを通じて実験に対する興味関心を高めさせる。

高学年の基礎的指導

- *実験や観察の作業を丁寧に行わせる。要点を整理し、的確に実験・観察ができるように指導する。
- *問題解決学習を通して、的確な考察ができるよう指導する。